

輝く個・つながる子らの育成

～ 新聞を活用した授業作り ～

実践校第1年次 川上村立川上第一小学校 岩田 典久

はじめに

レタスに代表される高原野菜で有名な川上村は、四季折々の豊かな自然に恵まれており、その中で、本校の子どもたちは、夏は川遊び、冬はスケートなど、自然を満喫しながら伸び伸びと生活している。と同時に農繁期を中心として積極的に畑仕事など農業労働に関わったり、地域における伝統行事へ進んで参加したりするといった特徴をもちながら過ごしている。

このような地域や子どもたちの特性を大切にしながら、本校では、「しゃくなげ（川上村の村花）
①自分から学ぶ子 ②やくそくを守る子 ③くろうをいとわない子 ④なかよく助け合う子 ⑤げんりゅうの里を愛する子」を学校教育目標に掲げて日々の教育活動を展開している。

本年度、「輝く個・つながる子ら」をキーワードとした全校研究テーマのもとで、子どもたちが意欲的に学習に取り組むための支援のあり方を模索してきている。同時に、NIEの実践校としての指定を受け、職員3名が推進役となり、日々の学校生活の中に新聞を取り入れ、上記のテーマ達成に結びつく学習が成り立つよう研究や実践を進めてきている。

育てたい力

1 興味・関心

- (1) 新聞に興味を持って、見たり読んだりすることを楽しむことができる。(中・高学年)
- (2) 新聞記事を読み、読み取ったことを表現したり討論をしたりすることを通して、社会の出来事に関心を持つことができる。(高学年)

2 表現する力

- (1) 新聞記事や新聞写真から読み取ったことや感じたことをもとに、自分の思いや考えを進んで発表することができる。(中・高学年)
- (2) テーマを決め、テーマに迫るために必要な記事は何かを考え、取材をし、新聞の形式にまとめることができる。(中・高学年)

3 コミュニケーションの力

- (1) 相手に分かりやすく伝えるように工夫して、適切なコミュニケーションをとりながら、自らの考えを深めていくことができる。(中・高学年)

実践の概要

1 実践対象学年、クラス数、児童数

学 年	ク ラ ス 数	児 童 数
3 年	1	27
6 年	1	33

2 科 目 3 年 学級活動、国語 6 年 国語、総合的な学習の時間

3 新聞の提供状況

(1) 購読計画表

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝日			○	○		
毎日					○	○
読売					○	○
日経				○	○	
産経		○	○			
信濃毎日			○	○		

購読計画とは別に、学校として信濃毎日を年間購読。

(2) 配置と整理、児童に触れさせるための工夫

まず教職員が新聞に慣れ親しみ、活用へのヒントが得られることを目的に、最初の2か月は職員室内の休憩場所に係が並べて置き、一日を終えると職員室の所定の場所に新聞ごとに積み上げていった。授業等で必要な場合は、そこから担当がクラスに持って行ったり、必要な部分をコピーして利用した。

11月からは、児童が自由に閲覧できるように、写真1、2 少人数学習教室に設置した6年教室隣の少人数学習用教室に新聞名、月毎に分けた棚に新聞を毎日ストックしていくようにした。＜写真1、2＞

高学年の児童が業間や昼休みなどに来て、新聞に目を通す姿が見られるようになった。また、スポーツ欄を見ていく（読んでいく）児童が多かった。一方中学年の児童は、置き場所が、中学年の教室からは少し距離があるため、自分から進んでいく姿は見られなかったが、担当がニュースや新聞広告紹介したときには、その記事を確認のために来て見る（読む）姿があった。

新聞コーナー

写真1



写真2



4 新聞を取り入れた授業をする上で工夫したこと

(1) 新聞学習が楽しいものになるような動機付け

上記【育てたい力】- 1【興味関心】とも関連して、実践1年次ということもあり、「新聞はむずかしい」から、「新聞って楽しいね!」という気持ちへ高めるため、次のようなことを行なった。

新聞から、知っている字や漢字を探させた。(3年 学級活動)

新聞から、新聞の値段、大きな活字、小さな活字を探させた。(6年 国語)

教師が、身近な地域のことや話題や子どもが興味を持ちそうな記事を教室に掲示したり、話題にしたりして知らせた。(3年 朝の活動の時間)＜写真3＞

教師が新聞(子ども新聞を含む)からニュースを選んで読み聞かせをした。(3、6年)

地元に伝わる行事について書かれた新聞記事を校長講話で取り上げ、紹介したり掲示したりした。＜写真4、5＞

本校の全校児童が演じて発表した創作音楽劇を取り上げた記事を、音楽室入り口廊下に掲示したり、音楽の時間に話題にしたりした。＜写真6、7＞

(2) 本校の現行教育課程の中でN I Eに取り組む

N I Eの時間を特設するのではなく、年間計画の見直しを図り、新聞記事を資料として活用した。

上記【育てたい力】- 2, 3【表現力、コミュニケーション力】とも関連して、教科「国語」の力を高めるための補助教材としての学習を主とする。

特別活動(学級活動) 朝の活動(スタートタイム、ドリル) ふり返りタイム(学校裁量の時間)を有効活用する。

写真3



写真4, 5

校長講話で取り上げ、紹介した新聞記事と
掲示の様子

写真5



写真4



信濃毎日新聞 朝刊 2008.1.16

写真7



写真6, 7

全校児童が演じた創作音楽劇

の記事と掲示の様子

写真6



信濃毎日新聞 朝刊 2008.1.9

実践の紹介

1 3年生の実践

特別活動（学級活動）「一番おもしろそうな記事や写真を見つけよう」（2時間）
自宅でとっている最近の新聞を一人一部ずつ持ってこさせ、子どもが好きな面を30分自由に読ませ（見せ）、一番おもしろかった記事や写真を一人ずつ発表させた。
○成果：新聞、日付が違い、いろいろな話題があることに気づくことができた。

2 6年生の実践

国語 「熟語の成り立ち」（2時間）
三字熟語の成り立ちを理解させるために、まず新聞からできるだけ多くの三字熟語を探し、発表する活動をさせた。出された三字熟語を教師は板書し、いっぱいになったところでそれを成り立ちに基づいて、2種類（A：二字熟語の上に一字を加えた語／B：二字熟語の下に一字を加えた語）に分類。どのような根拠に基づいた分類かを子どもたちに考えさせ、それぞれのタイプと同じだと思われる三字熟語をあげさせた。三字熟語の成り立ちについてみんなが理解したところで、同じタイプの熟語を見つけて、発表させた。最後に、まだ出ていないもう一つのタイプC：一字の語の集まりからなる熟語を新聞から探し、発表させた。
○成果：どの子も夢中で取り組んでいた。紙面から三字続きの漢字を探すだけなので、漢字が苦手な子でも抵抗なく取り組むことができた。

国語 「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」（9時間）
教科書の教材「平和のとりでを築く」は、広島原爆ドームが世界遺産になるまでの経緯とその出来事の意味について述べた文章である。この文章をきっかけにして、「戦争」と「平和」について話し合い、「平和」についての自分の考えを発信していった。導入としてほしかったのは、原爆についての客観的なデータではなく、当時の雰囲気をそのままに伝えてくれる資料であった。そのため、広島への新型爆弾投下を伝える当時の新聞記事（毎日新聞：昭和20年8月8日）のコピーを読ませた。
○成果：戦争に関する雑多な情報が載っている当時の紙面を見ることで、「広島に新型爆弾投下」の見出しの横に、「“大国”支那の悲哀・米ソの玩弄物・真の東亜解放へ」という見出しを見つけ、この時代の民衆の意識にまで思いをはせるきっかけが生まれた。

3 5年生の実践（実践対象学年ではないが、協力していただいた学級）

国語 「続けてみよう」
4年生のときから続けてきた生活記録であるが、5年生になったのを機に新聞に親しみ、社会の出来事に関心を持たせることをねらいに、「新聞日記」を取り入れた。初めは、クラス全員で日を決めて（二週間に一度くらい）取り組んだが、慣れてきた時点で個々の子どもにまかせ、自分が取り組みたいときに新聞日記を書くことにした。＜写真8、9＞
○成果：社会事象への関心が高まり、新聞が子どもたちのコミュニケーションの手段となり、スポーツだけでなく、自然、事件、等の話題（記事）で会話が活発になることが多く見られた。

写真8



写真9



実践学級の単元学習の報告から

1．単元名 「学級討論会をしよう」 《 6年 国語 》

2．単元に行きつくまで

子どもたちは川上村という小さな山あいの村の暮らしに安住している。しかし、そのまわりにはもっと大きな世界が広がっている。もし、その世界に大きな変化が起きたなら、子どもたちの生活も一変するだろう。そうした変化に翻弄されないためにも、常に社会の動きを意識し、それについて自分なりの意見を持つておくことが必要だと思われる。高学年にはそれを期待したい。しかし現実には、イラク戦争、憲法改正、国民投票法といった大問題についても知っている者は皆無に等しい実態がある。

一方、国語の力に目を向けてみても、文章の感想を述べ合うことはできても、根拠を示しつつ自分の意見を述べたり、相手の意見の論拠の矛盾を突いたりする力はまだ弱いと感じる。

そこで6年国語の教科書の単元「学級討論会をしよう」において論題を決める際に新聞を使い、今、社会で話題になっている問題について学級で討論することにした。

3．つきたい力の決め出し

社会問題に関心を持つ。

賛否が分かれる問題について、それぞれの意見の長所・短所を分析的に考える。

理由を示しつつ、話し方を工夫し、説得力のある意見を述べる。

相手の意見を、その理由を考えながら聞き、自分の考えとくらべる。

討論を生かし、問題解決に向けて自分の考えをさらに深める。

4．新聞を扱う上での創意工夫

新聞の切り抜きを行う際には、あらかじめクラス全員でやりかたを確認した上で、家の新聞で切り抜きをさせた。

新聞を家でとっていない子には教師が家でとっている新聞を渡した。

5．単元展開

<単元のねらい>

社会問題に関心を持つ。

賛否が分かれる問題について、それぞれの意見の長所・短所を分析的に考える。

理由を示しつつ、話し方を工夫し、説得力のある意見を述べる。

相手の意見を、その理由を考えながら聞き、自分の考えとくらべる。

討論を生かし、問題解決に向けて自分の考えをさらに深める。

<単元の展開>

新聞を読み、今話題になっていることを見つける。

新聞で見つけた話題の中から、話し合ってみたいテーマを決める。

長所・短所のリンクマップを描いて、問題の構造をつかむ。

賛成・反対のグループに分かれて、証拠資料を集める。

討論会の作戦を立てる。

学級討論会をひらく。(本時)

討論会で深まった自分の意見を新聞に投書する。

6. 本時の活動

主 眼

これまで新聞やインターネットを使って「18歳成人」の問題について、賛成・反対それぞれの立場で調べ、意見をまとめてきた子どもたちが、自分とは異なる立場で調べ、意見をまとめてきた子どもたちとの討論を通して、自分の考えをより深めていくことができる。

展 開

段階	学習活動	支援 ○評価 留意点	時間
導入	前時までの学習を振り返り、討論会の流れを確かめる。 討論会の準備。	黒板にあらかじめ名札を貼らせておき、その位置で各児童の考えが一目でわかるようにしておく。 移動黒板を用意しておき、証拠資料などはそこに貼るようにする。	5
展開	討論会をする。 1. 司会 2. 初めの主張 賛成派（4分） 反対派（4分） 3. 作戦タイム（2分） 4. 質疑応答 反対派→賛成派（4分） 賛成派→反対派（4分） 5. フリートーク（7分） 6. 最後の主張 賛成派（2分） 反対派（2分）	司会の進め方は必要に応じて助言する。 発言内容は必要に応じてメモをとらせる。 ○事前に用意した資料をもとに、論拠を示しつつ、自分の意見を述べているか。 作戦タイムの時間には必要に応じてアドバイスする。 ○議論の筋道に沿って相手の発言を聞き、的確な質問をしているか。 ○自分の考えと比べながら、説得力のある発言をしているか。 全体で意見交流する。 話し合いの筋道からそれた発言をしている児童には、適宜アドバイスする。 ○相手の主張や質問に対する答えをよく聞き、それらをふまえて発言しているか。 相手側から教えられたことも入れるようにあらかじめ伝えておく。	32
まとめ	教師の講評を聞く。 自分の考えの変化を名札の位置で示す。 自分の意見の変化や、今日の討論会についての感想を述べる。	人数を区切り、スムーズに。動かし方をよく観察して、必要ならばメモしておく。 議論の流れの中で発言できなかった子や、特徴的な動かし方をした子に発言をもとめる。	8

7. 児童生徒の様子から

「18歳成人」のテーマについて、インターネットを使って調べ学習を始めたが、どの情報が重要なものなのか、情報の洪水の中で選び出すことに困難を抱える子どもが続出した。そこで、新聞記事にもどり、「18歳成人」にはどのようなメリット・デメリットがあるかと予想されるか、クラス全員であらためて確認した。それによって、インターネットの情報の海を航海するための航海図が得られ、効率よく調べ学習ができるようになった。



写真10, 11

授業の様子



討論を通じて、子どもたちの間に意見の変化があまり見られなかった。これは、一方がある論点を出してきた時、それに対して答えるのではなく、別の論点を出して応戦するという展開になってしまったことによる。社会問題についてディベートする際には、あらかじめ論点をしぼり、それを共有しておく必要性を痛感した。

写真12 本校公開授業を伝える新聞記事

8. この授業を通じて授業者が学んだこと

新聞は、ある問題についての必要最低限の情報をコンパクトにまとめている。そのため、インターネットなどで調べ学習をするのに先立ち、すべての子どもが共通に確認しておくべき、おおまかな航海図として有効である。しかし、漢字の難しさは、小学生にとっては、内容に深く踏み込むことを妨げる障害として立ちちはだかっている。漢字にルビさえついていたら、小学校でももっと新聞が活用できるのではないだろうか。漢字にルビのついた本を読むことで漢字を覚えるという研究もある。新聞の漢字にルビがつけば、新聞を読んで漢字を覚えるという効果も期待できるように思われる。



研究のまとめ

1. まず教職員が新聞に慣れ親しむことが実践のスタートであり、教材研究の土台になる。
2. 5年と6年教室の間の少人数学習用教室に新聞を読む場所、ストックする場所を配置した（子どもの近くに置いた）ことにより、新聞に目を通したり、時にはじっくり見たり（読んだり）する姿が多くなった。
3. 実践1年次ということもあり、新聞学習が楽しいものになるような動機付けの実践をいくつか行った。子どもたちは、新聞を活用した授業に、「新聞はむずかしい」ではなく「新聞って楽しい!」という気持ちで向かうことができたように思う。

残された課題

1. NIE 指導計画の作成。
2. NIE で育てたい力の見直しと修正。
3. 新聞を活用した重点研究教科「国語」の授業作り。
4. 県内（他校）のNIE 研究や実践事例の情報収集や情報交換。